

路材協会報

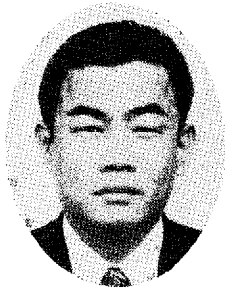
路面標示材協会

東京都千代田区神田富山町17(西川ビル)
〒101 TEL (03) 251-8325

創立10周年記念号

目次

創立10周年記念と会長就任に当って.....	新美喜久雄.....	(2)
路材協の新陣容		(4)
~~~~~		
路面標示材協会創立10周年を祝して.....	時崎 賢二.....	(6)
路材協創立10周年に寄せる .....	満田 喬.....	(8)
技術面の活躍・発展を衷心より期待する.....	雑賀 武.....	(11)
トラフィックペイントの連想 .....	岸 康弘.....	(13)
日々に新たに .....	斉藤 治一.....	(16)
設立10周年記念によせて.....	江本 義男.....	(17)
想起一昔日.....	石渡 清司.....	(20)
今後の更なる発展を願って .....	竹嶋 正幸.....	(23)
路材協創立10周年に寄せる .....	松本 吉弘.....	(25)
路材協の特質と使命 .....	西川政之助.....	(27)
技術委員会活動をふり返って.....	今村 晴知.....	(29)
~~~~~		
＝ 応援席の声 ＝ 期待したいこと.....	末井 誠史.....	(34)
事務局便り	(36)	余滴
		(37)



創立10周年記念と 会長就任に当って

会長 新美 喜久雄

不肖私、このたび協会長の重職を仰せつかり、恐縮しております。率直に申して、当業界内、外の諸事情が最近とみに難かしさを加えつつあるときだけに、浅学非才の私にはいささか荷が重すぎるのではないかと案ぜられるのであります。

協会のルールに則って決まったことだから絶対受けなければならないといわれますので、止むなくお受けする決意をいたしました。しかし、これには条件つきといってはヘンかも知れませんが、「協会員の皆さんが一致結束して全面的に協力支援して下さい」ということを前提として、やらせていただくということ、ぜひご理解いただきたいと存じます。協会員の真面目な結束努力が期せられるかぎり、ひいては発注機関をはじめとする外部の関係方面からのご理解、ご支援もいただけるものと確信いたします。つまり、こうした内外両面のご理解、ご支援なくしては到底円滑な協会運営は期せられるものではないと思います。

ところで、本年6月は弊協会の創立10周年に当たります。顧みますと昭和46年6月に前身である路面標示材懇話会として発足して以来、早くも10年の歳月が流れました。その間、幾多の苦難曲折がありました。とくに第1次オイル・ショックによる一般景気のリセッションと急激なコスト・プッシュによる需要、採算両面の悪影響の克服に苦勞したことは決して忘れられません。協会運営の面でも歴代の先輩会長、副会長各位がどれほどご苦勞をされたかは想像を絶するものがあると思います。

その後もいくつかの難関を乗り越えてきて、今まさに第2次オイル・ショックへの対応の最後の正念場にさしかかりつつあります。一方、中央、地方を通ずる

「財政再建」のきびしい状況も長びく状況にあります。就任しました以上はなんとしても先輩各位のご努力を汚さないことを性根を据えて、業界の発展に少しでも貢献できるような協会運営を期したいと、心から念願しております。

同業者の集まりである協会の性格とか目的については、いろいろな見方、考え方があってと思います。しかし、私は、率直に言って協会は、同業者の利益共同体であって、目的的には、会員相互間の切磋琢磨であり、懇親であり、情報交換であり、また共通課題への発展的対応であり、対外活動への共通の足場であったり、等々するものであると思います。そして協会活動がもたらす利益の実体は、必ずしも直接的、具体的、金銭的なものだけではなく、時には間接的、抽象的、精神的なものである場合もあるわけで、全体としてはそれらの全部を包含した総合的利益であると考えられます。客観情勢により、また運営の力点のおき方によって、それらのうちどの面がより強く出てくるかは、いちがいに言えないことですが、その点こそ、会員各位のご協力をいただきながら知恵をしぼって、よりよい運営を期して参らねばならぬところです。つきましては、各位に諸会議体への積極的出席（つまり協会活動への積極的参加）をとくにお願いしたいと考えております。

交通安全施設関連産業の社会的重要性はますます高まることも衰えることはありません。われわれ材料メーカーは、その社会的責任の自覚に立って、今後ますます良品を、適正価格で、適時に、安定的に供給することを心がけると同時に、他方では例えば安全施工、能率施工に適応するような製品面の技術的開発にも一層の努力を傾注しなければならないと思います。末筆で恐れ入りますが、発注機関、施工業その他関係業界ならびに団体の各位におかれましては、何とぞ私どもの意のあるところをお汲みとり下さいまして、旧に倍するご愛顧、ご指導、ご鞭撻を賜わりますよう幾重にもお願い申し上げます。

なお、会報創立10周年記念号の発行に当っては、協会内、外の多くの関係各位から玉稿をいただいて、文字通り有意義な記念号を刊行できましたことを心から喜び、深く感謝を申し上げる次第でございます。（菊水ライン㈱取締役社長）

路材協の新陣容

路材協では、去る5月21日開催の定時総会において、全役員の任期満了にともなう改選を行いました。その結果、下記のような新陣容が決定されましたので、ここに紹介いたします。（協会事務局）

会 長	新美 喜久雄（菊水ライン㈱）
副 会 長	大原 信三（東亜ペイント㈱）
同	今村 晴知（日本ペイント㈱）
専務理事	小原 陽二（協会・事務局）
常任理事	西川 政之助（アトム化学塗料㈱）
同	石渡 清司（大崎工業㈱）
同	宮本 誠（信号器材㈱）
同	中脇 久雄（積水樹脂㈱）
同	戸田 幸男（神東塗料㈱）
同	小暮 房男（日立化成工業㈱）

アコライン

各種塗料製造販売・道路標示材製造及施工



富国合成塗料株式会社

代表取締役 小西 雅之

本 社 神戸市兵庫区永沢町3丁目7-19

〒652 TEL(078)575-6600(代)

工 場 神戸市垂水区板谷町長谷

営業所 東京・名古屋・大阪

理 事 星 沢 律 一 (関 西 ペ イ ン ト 株)
 同 福 地 昭 一 (大 日 本 イ ン キ 化 学 工 業 株)
 同 品 川 克 己 (太 洋 塗 料 株)
 同 後 藤 静 雄 (東 海 樹 脂 工 業 株)
 同 小 西 雅 之 (富 国 合 成 塗 料 株)
 同 宮 川 勇 (宮 川 興 業 株)
 同 井 上 清 (レ ー ン マ ー ク 工 業 株)
 同 高 橋 一 夫 (株 ロ ー ド , マ ー ク)
 監 事 野 村 輝 彦 (ラ イ ン フ ァ ル ト 工 業 株 一 大 崎 工 業 株 一)
 同 西 村 秀 也 (大 日 本 イ ン キ 化 学 工 業 株)

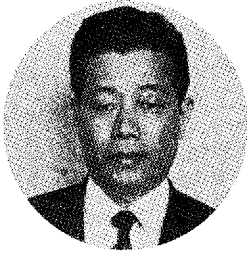
なお、理事会の諮問機関である常任委員会の各正、副委員長も下記のように決定されました。

業 務 委 員 会 委 員 長 及 部 匡 史 (菊 水 ラ イ ン 株)
 同 副 委 員 長 山 下 政 男 (ア ト ム 化 学 塗 料 株)
 技 術 委 員 会 委 員 長 鳥 取 更 太 郎 (大 崎 工 業 株)
 同 副 委 員 長 森 山 吉 雄 (神 東 塗 料 株)



信 号 器 材 株 式 会 社

本 社 〒211 神 奈 川 県 川 崎 市 中 原 区 市 の 坪 1 6 0
 T E L 0 4 4 - 4 1 1 - 2 1 9 1 (代)
 広 島 分 工 場 〒731-01 広 島 県 広 島 市 安 佐 南 区 佐 東 町 緑 井 字 兼 広 1 0 4 8 - 1
 T E L 0 8 2 8 7 - 7 - 0 3 3 3 ・ 4 2 0 6
 営 業 所 東 京 ・ 埼 玉 ・ 千 葉 ・ 群 馬 ・ 静 岡 ・ 名 古 屋 ・ 大 阪
 ・ 兵 庫



路面標示材協会 創立10周年を祝して

時崎賢二

路面標示材協会創立10周年を心からおよこび申し上げます。

振り返ってみますと、創立の昭和46年は第1次交通安全施設等整備事業5箇年計画発足の年であり、また、それまで増加の一途をたどってきた交通事故死者数が初めて減少の兆しを示した、まことに意義深い年であります。しかも、以来9年間にわたって交通事故死者数は減少を続け、それまでのピークであった昭和45年の死者数約1万6,800人の半減を目指す第2次5箇年計画（昭和51～55年度）の目標をほぼ達成することができましたことは、私どもにとって、交通安全施設の整備による道路交通環境の向上が、交通事故抑制と緊密な相関があることを実証したことになり、さらに、これを挺子として、本年度からの第3次5箇年計画の策定上の大きな支えになったわけであります。

この10年間は道路舗装率の向上もさることながら、交通安全施設の一環である路面標示の普及は目覚ましいものがあり、今日、都市内はもち論、地方においても主要道路において、路面標示を見ないところは皆無であると断言してもよいほど普及しております。しかもこれが交通の流れの整序と交通事故の防止の面に重要な役割りを果していることは、道路利用者の等しく認識しているところであります。

このことは、行政面の努力もさることながら、標示材質の革命ともいふべき溶着式ペイント（JISでは溶融式になりましたが）の出現であり、それが従来のものに比較して抜群の耐久力を発揮したことであります。この開発に当たった業界の方のなみなみならぬご苦勞に、あらためて敬意を表するとともに、かつて、毎

路材協創立10周年に寄せる

入りペイントを購入し、警察官や交通安全協会の方々が汗水を流して、なれない手つきで作業に当たっていた姿を思い浮かべ、感無量のものがあります。

目覚ましい経済発展と、それによってもたらされた道路事情の好転、モータリゼーションの急激な隆盛は、戦後、「日本には道路予定地はあるが道路はない」とまで酷評された時代を記憶している世代から今日を見ると、夢のような気がいたします。

今後も、まだまだモータリゼーションの進展は続くものと考えられます。またこれによる利便とともに、交通事故をはじめ、交通渋滞、交通公害等の交通障害の発生も予断を許さないものがあり、官民一体、あらゆる対策をもってこれに臨まなければなりません。とくに道路交通環境の整備については、今後も技術面の研究開発と並行して、諸施策の強力な遂行がまだまだ必要とされています。

路面標示につきましても、現状に甘んずることなく、合理的かつ合目的な在り方、施工の安全と迅速化、耐久性、便宜性の向上等が期待されますが、基本的には何といても路面標示材質の向上に負う面が大きく、今後も研究開発について、一層の努力を切に望む次第であります。最近、JISの改正によりトラフィックペイントも一本化され、定着した感がありますが、施工時等の現場における取扱いの安全性なども、ユーザー側は望んでおり、できれば現場での溶融加熱作

美しい環境づくりをめざす

日本ペイント

(本社) 大阪市福島区福島6-8-10
(06) 458-1111
(東京) 東京都品川区南品川4-1-15
(03) 474-1111

〈道路用〉

溶融タイプ：ニッペエバーライン
エクセル

加熱タイプ：ニッペナイトライン

常温タイプ：ニッペロードライン
ニッペロードカラー
ニッペーブ

路材協創立10周年に寄せる

業を省くことも一つの課題であります。

創立のお祝いを述べるに当り、いささか苦言を提することとなりましたが、真意をおくみ取りの上、今後ともよろしくご協力をお願い申し上げます。最後に、貴協会のご発展を祈るとともに、会員の皆様の一層のご活躍を願いつつ、祝詞とさせていただきます。 (警察庁交通局交通規制課課長補佐)



路材協創立10周年に寄せる

満田 喬

路面標示材協会創立10周年おめでとうございます。協会会員および事務局の皆様へ心からお祝い申し上げます。

最近の路面標示材の品質およびその施工技術は、皆様の努力のおかげで目をみはる向上をし、トラフィックペイントに関するJIS規格制定作業も順調に進み、関係者の御尽力に心から感謝いたしております。

このようにすばらしい品質と施工技術の向上がある一方では、運用およびそれを取りまく環境から、今後ともなお一層の努力が望まれる点も残っており、ここで、少しふれてみたいと思います。

まず施工では安全施工という問題があります。路面標示は供用中の道路において行われなければならないことが多いので、事故に注意を払い、できる限り安全対策の配慮をしなければなりません。

次に積雪寒冷地においては、スパイクタイヤによる路面損傷に対して、これに耐える品質のトラフィックペイント材料がまだ開発されていない現状では、毎年新しく塗り直さなければなりません。このためには耐久性の問題よりも、むしろ

路材協創立10周年に寄せる

速く、美しい路面標示が、短期間にしかも能率的に行なえるということが肝要であります。このため能率的な施工を含めた機械施工技術の向上が望まれます。また美しい道路の区画線を設置するための問題の一つに路面標示の消去があります。新しく塗付する前には、これまでの塗料を、できる限り完全に取り除き、施工後の水たまり、塗料による路面の盛り上り、車のスリップなどをなくしたいものです。

第三に区画線の夜間、特に雨天時の視認性の低下の問題があります。私どもでもこの問題にとり組んでいます、とにかく区画線上の排水状態を良好に保たねばなりません。

第四にほぼ完成されているといわれる品質に関する要望を記してみたいと思います。アスファルト路上に塗布されている路面標示材をよくみますと、塗料そのもののひびわれの他に、区画線とアスファルトとの境界に深いひびわれが発生しているものがあります。これは塗料とアスファルトとの膨張係数のちがいによるものかと思われませんが、特に交通量の少ない路面や路側の交通の立入らない路面に多いようです。これに水がしみ込んでも、一般道路なら多少の気になる程度ですまされる場合もあるかと思いますが、長大橋のような下部が高級な鋼床板であったりしますと、長期にわたってはきわめて気がかりな事実であります。施工順

キズライン(よう着用)・キズイペイント



菊水ライン株式会社

代表取締役 新 美 喜久雄

本 社 名古屋市南区加福本通1丁目26番地<052>611-0680
関 東 工 場 埼玉県南埼玉郡白岡町大字篠津字立野857番地の1<04809>2-6291
阿久比工場 愛知県知多郡阿久比町大字卯坂字下同志鐘1の82<05694>8-1145
支 店 東京、大阪
営 業 所 札幌、栃木、埼玉、千葉、神奈川、新潟、静岡、北陸、岐阜、三重、
兵庫、中国、福岡、九州、沖縄

路材協創立10周年に寄せる

序として、ある程度、路面アスファルトが締まってから路面標示を施工するということが、何の障害もなく実行できるかといった点に問題が残されています。塗料とアスファルトとの膨張係数を同じにすることとともに、時間経過による両材料の縮まり方といったことが大きい問題でしょう。

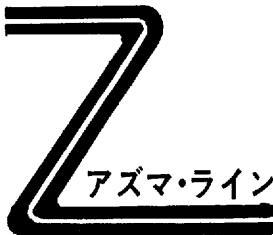
第五に施工後の路面標示の特性についても、さらに研究する点があります。

横断歩道の上を走行していた車がブレーキをかけた場合、スベリによって事故が発生することがあり、殊に雨天時におけるゼブラ区画線とその間の水溜りによるスリップなどはよく起る問題です。また最近スクールゾーンとあって、路面に緑色の塗料が一面に塗ってあるのをみかけます。しかし、トラフィックペイントは本来、区画線のように線上を車が横切ることを前提としていない所に使用するものですが、このように舗装の一部として用いられた場合に、スリップ等の問題はどうなっているかについても、今後、調べる必要があるようです。

以上、思いつくままに、主として使用、運用の点から、今後とり組まねばならない問題のいくつかをあげてみましたが、私どもを含めた関係各位の今後の努力に期待し、路面標示材協会のますますの御発展と御活躍を期待する次第です。

(建設省土木研究所交通安全研究室長)

道路標示材



アズマ・ライン

溶着用トラフィックペイント

アズマ・ライン JIS K5665

タイプ～A・B・C・各種

色～白・黄(特注 緑・赤・他)

アズマ・ライン プライマー

区画線施工工事も承ります。

東海樹脂工業株式会社

本社・工場 〒422 静岡市中島742-1 Tel 0542(81)0044

大阪営業所 〒541 大阪市東区淡路町1-22-6 RRビル内 Tel 06(201)5589

名古屋営業所 〒460 名古屋市中区錦3-7-14 スカイビル内 Tel 052(971)3861



技術面の活躍・発展を 衷心より期待する

雑 賀 武

貴協会創立以来10周年のおめでたいおりに、一言お祝いを申しのべることは誠に光栄に存ずる次第であります。

道路交通量が飛躍的に増加する反面、経済姿勢は厳しさをまし、不況から容易に脱却しそうにありませんが、貴協会の強いご指導によって、トラフィックペイント業界は技術の向上並びに生産の合理化に、めざましい躍進を遂げられていますことに對し、深く敬意を表し、また心強く思う次第であります。このことは私たち工事業界に及ぼす影響にすこぶる大きなものがあります。ここに10年間のご努力に對しお礼を、しかしてご発展に對し心からお祝い申し上げます。おめでとうございます。

私が思いますことは、いつの時代においても交通は文化経済の動脈的重要な役目を果たすものでありまして、構造を整備される都市間を結ぶ、あるいは国民生活に密着する道路の改良充実には、まだまだ多くの課題があり、これの進展が国家の繁栄を表わすと言っても過言でないということであります。

決定をみている今年度から発足する第三次交通安全施設等整備事業五カ年計画の目玉は歩道の整備、歩行者優先のCommunity道路の実施、自転車道・自転車置場の設置および道路状況に関する情報提供の整備等のようであります。種々の道路交通安全施設の強化とともに、交通信号機および道路標識等と関連して、路面標示が強化されることは、せっかく整備された道路を、交通の安全確保および供用効率向上の面から、完璧なものとなさねばならないことはいうまでもありません。

路材協創立10周年に寄せる

路面標示の出来栄は、おかげさまで、技術的にみて、大変進歩してまいりましたが、供用道路上で作業を施工することは、ますます厳しさをましており、反面施工技能者の確保には非常に苦勞する現実であります。今日までに、幾度か私たち施工作業に従事している者が、突入してくる自動車によって被害を蒙っていますが、幸い施工作業中、通行者に何等の支障も与えたことはありません。これは施工者側が作業中の安全に対して十分なる注意を怠らないことと、通行者に対し工事中であることを承知していただくことによるものであります。私はこれで足りる、これより方法がないとすべきであってはならないと思うのであります。

供用中の道路において大仕掛な段取をしたり、また施工作業はずいぶん短時分間になりましたが、さらに時間がかからないように、さらには火力を用いない方式に改良したい等について、常に話し合い意見の交換もしています。私はこれが時代の要請であると信じています。

何事も技術的にずいぶん変化しているおり、私たちの企業も新しい発想をもって、創造開発するのが80年代の果すべき課題であります。もちろん工事業者の私たちも努力いたしますが、材料を生産される貴協会の皆さん方に依存するところが大きであります。従前にまして連絡協調を密にして、技術価値の高い材料ならびに施工法の改善に努めようではありませんか。

20年の実績と安定した高品質で定評の

ラインファルト® LINEPHALT

製造 **大崎工業株式会社** 堺市上83番地 ☎(73)1261

発売元 **ラインファルト工業株式会社**

本社 大阪府堺市宿屋町西3丁1-6 ☎(0722)38-7071 〒590

東京営業所 東京都大田区下丸子2-32-6 ☎(03)750-8009 〒146

中部(一宮市)(73)4686.京都(313)1866.静岡(藤枝市)(43)1932.札幌(821)1335
神奈川(横浜市)(713)5164.埼玉(行田市)0485(53)0341.群馬(高崎市)(53)0088

路材協創立10周年に寄せる

貴協会の会議に私たちが出席して、全国的に工事業者が一体となり、貴協会との連携の下に、標示業の進歩向上を図ろうと協議した過し日のことを思いおこします。貴協会の皆さんの研究に私たちの希望および意見を加えられ、私たちは新しい材料に対する施工法に工夫をなし、上述の新時代にふさわしい付加価値の高い、技術的に革新的な路面標示を創造することが、私たちの使命であり、かくて道路が立派になり、今後の文化生活、経済成長に資するものであります。またそれにつれて私たちの企業も安定することになるわけです。どうかみなさん、現在の不況から脱出するためにも、おたがいに努力いたしましょう。

終りに(社)全標協会員が常々お世話になっていることに対し、お礼申し上げ、貴協会のますますのご隆盛と会員の皆様方のお元気で活躍されますことをお祈り申し上げ、お祝の言葉といたします。おめでとうございます。

((社) 全国道路標識標示業協会会長)

トラフィックペイントの連想

岸 康 弘

路面標示材協会より何か書くようにとのご依頼を受け、何をテーマとするかとまよいながら、メ切日も迫り、なんとなく始まったこの一文、終着点はどこにつくのか、現代若者のフィリングによる行動と一面似ているようで、過した正月の数が多いだけスマートにはまともまらないことを心配しながら、とにかく書きはじめてみた。

テレビでよく似たようなことができるようであるが、トラフィックペイントと言う言葉に対して、何を連想し、何を今後期待するかを、一般の人にアンケートを

路材協創立10周年に寄せる

求めたとして、これについての回答を予想すると、私は次のようなことをまず考えついた。

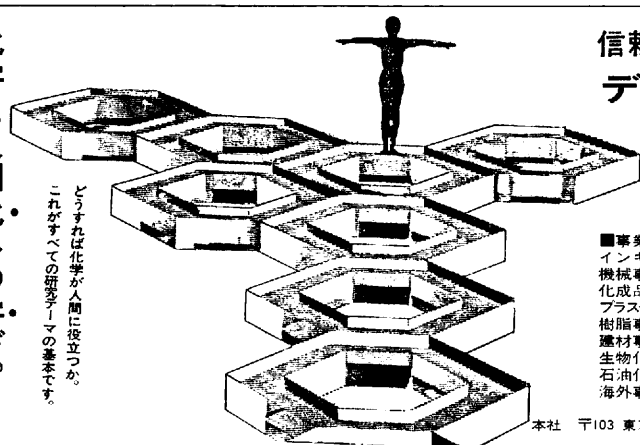
1. 回答者の男・女性別による相違はあまりないだろう。これは塗料中の他の種類にくらべ、装飾的な美観を目的とするものではなく、現在多く使用されている色も白と黄色がほとんどであることなどより、当然のことと思われる。

2. 回答者の運転免許証を持つか持たないかの別で、異なった方向性がでてくるであろう。これは車を運転し、車道を走らせる側と、歩行者が道路を利用する立場からでは、当然異なることと思われる。運転免許証所有者は後にして、歩行者の回答は、横断歩道のゼブラ模様や歩道上の自転車マークなどを中心として、着色歩道や模様入り歩道までも、トラフィックペイントのイメージに入れることも予想されそうである。

3. 運転免許証を持つ回答者でも、職業として毎日運転する人と、生活の便利のためにのみ自分の車を運転する人とでは異なった回答の方向性がでてくるだろう。これは、一日における車を使用する時間と行動範囲の広さの相違が相当大きく、自然トラフィックペイントより受ける影響の種類と期待が異なって当然のことと思われる。プロでない運転者の場合は、これらの点以外に住居の所在地の環境条件が回答に方向性を持たせるようにも思われ、とくに市街地と田舎、住宅地

化学は人間化への学び。


どうすれば化学が人間に役立つか。これがすべての研究テーマの基盤です。



信頼の
ディックライン

<道路標示線>
化成品事業部

■事業部
インキ事業部
機械事業部
化成品事業部
プラスチック事業部
樹脂事業部
建材事業部
生物化学事業部
石油化学事業部
海外事業部



大日本インキ化学

本社 千103 東京都中央区日本橋3-7-20 TEL (03)272-4511

路材協創立10周年に寄せる

と商工業地区では交通量・他の交通標識との関連性が回答に入ってくるのではな
かろうかと予想される。

4. プロの運転者の回答でも、長距離運転が主になると、市街地で主に乗用
車や中小型トラックを運転する人では、方向性が異なるのではないだろうかと思
われる。長距離運転は当然大型トラックまたは大型バスが主になり、高速道路
上で交通信号機はほとんどなく、幅広い道を比較的高い目の位置から標示を見なが
ら、長時間の高速運行中の条件での観点が主になり、一番有益な回答内容が期待
できるように思われる。これに対して、市街地は交通量も多く、他の交通信号や
標識もそれこそ頭が混乱するほど多いところを、歩行者にも注意しながらの運転
が主になり、外国人が言うサーカス運転も行わざるをえない人よりの回答とな
ると、はじめの回答とは当然相違するのではなかろうか。

ここまできて、塗料が使用されるようになる前はどうかとふりかえると
横断歩道に金属製の鋏のようなものを埋め込んであったことを思い出すだけで、
他にはないようであり、そして塗料になってからは、常に白と黄色で人の目の視
認を中心にする、おのずからある範囲にかぎられた中の選択であってみると、
現状が最善だよと落着いているのが処世の道ではなかろうかと、筆をおくこと
になった。

(日本塗料工業会技術部第一技術課長)

白さ、耐磨耗性、夜間反射率は抜群!

トアライナー

MR (溶着型)



東亜ペイント

P (ペイント型)

大阪市北区堂島浜2-1-29 (古河ビル) TEL (06)344-1371
東京都中央区日本橋室町2-8(古河ビル) TEL (03)279-6441



日に新たに

齊藤 治一

質的転換を叫ばれた激動の時代を乗り切ったこの10年の歳月は、貴会にとりましてまことに貴重な日々であったことでしょう。ご苦勞のほどを推察し、心からおよろこび申し上げたいと存じます。

草創期の10年は、夢中のうちと言ってはおかしいのですが、盛り上げる意欲のもとでまとまりがよく、いろいろな問題に対してスピーデーに対処することで、外見上はスムーズに流れ去ったように考えるのが普通であります。それには裏方のなみなみならぬ御努力があったものと思います。

昭和26年に常温用トラフィックペイントがJIS化され、ついで昭和46年によろ着用トラフィックペイントがJIS化されました。さらに50年にはトラフィックペイント用ガラスビーズのJISが制定されましたが、ガラスビーズの制定以前に、ビーズの標準化が急務であると考え、関係方面の方々の意向を打診しましたところ、賛同を得ましたので、その旨をビーズ関係者に伝え、その方面の方々の御努力によって、急速に今日ある日本ガラスビーズ協会が設立されるにいたりました。その後同協会が中心となって、とりあえずトラフィックペイント用ガラスビーズのJIS原案作成にかかり、JIS制定となったわけであり、トラフィックペイントは、ここに名実ともに形を整えたこととなり、大変よろこばしいことだったと思っております。

路面標示材は、ただに標示機能にのみとどまることなく、環境の整備、改善に広範囲にわたって大切な役目を果しており、自然のうちにわれわれの日常生活の中に溶け込んできているように思います。

路材協創立10周年に寄せる

レーンマークが新しいと、さわやかで気が引きまします。逆になると路面のよごれと不整備が目立ちます。舗装がカラフルになると、区分色別にとどまらず、色彩調節と同じ効果を、われわれに与えます。このような観点からしても、貴協会の存在と活動は、大変意義あるものと言えましょう。

技術革新が急テンポで進行している今日、塗料の内容・施工上の各種の困難な諸問題に立ち向わざるを得なくなることでしょうが、直接または間接を問わず、社会生活に直結する塗料を扱うときは、とかく複雑な環境上の問題を抱え込み、しかも、これらの問題は常に流動的でさえあります。

このような状況下で、20世紀最後の軌道に入ろうとするとき、すぐれた構成メンバーを有する貴協会が、「日日これ新たに」の気はくをもって御活躍されますよう期待するものであります。

((財) 日本塗料検査協会理事)



設立10周年記念によせて

江本義男

路面標示材協会の創立10周年記念にあたり、お祝いの言葉を述べる機会を得ましたことは、私の非常に光栄とするところであります。

貴路面標示材協会は、よう着塗料メーカーが主体となって、昭和46年6月に懇話会としてスタートされ、さらには昭和48年6月に路面標示材協会として、年々その充実化を計られ、今日まで10年間の尊い歴史をもった協会と認識しております。

この間、日本の社会情勢は幾多の変遷がありました。とくに、第一次石油シヨ

路材協創立10周年に寄せる

ックは日本経済を根底からゆるがす結果となり、物価の上昇により公共事業費が
圧迫され、その事業量は減少し、関連業界はその対応を余儀なくされたのが実情
でありました。

このような状況の中で貴協会は、年々その活動を充実拡大され、しかも着実に
その成果をあげてられました。その数多くの成果の中で、とくに私どもが理解
していることは交通事故の対策法の中で、最も重要なテーマの一つである黄色一
道路規制標示の黄色色調一について全国統一を行ったことがあげられます。

この黄色道路標示(よう着型トラフィックペイント)は、発注官公庁によって
色調が異っていたため、種々の問題点がありました。この難問題を解決すべく、
貴協会の技術委員会が中心となられて企画され試料片の作成等を行い、関係諸官
公庁および関係方面の方々と一緒にの視認・評価テストを経て、交通安全
上もっとも良い黄色よう着トラフィックペイントを決め、関係諸官公庁の賛同を
得られ、仕様に採用していただいたこととございます。

この黄色道路標示の色調統一による効果は、昼夜間を通じて色別ができること、
また、その視認性が高いことや全国あらゆる道路標示の色調が同一であることか
ら、その違和感はなくなり、しかも、ドライバーを始めとして歩行者が同一レベ
ルで交通ルールを守ることができるようになりました。

安全を願ひより良い製品づくりをめざす

路面標示材・よう着用トラフィックペイント

レンマ-ク

日本工業規格表示許可工場 許可番号677025

レンマーク工業株式会社

本 社 広島市安佐南区佐東町緑井1048-1

電話 08287 ⑦ 0333・4206

路材協創立10周年に寄せる

また、貴協会の活動の中で、もう一つのご業績は「路材協会報」の発行であります。この会報を通じて、交通安全対策の中で、道路標示の重要性を説き、さらには内外との意志の疎通、路面標示材料のレベルアップに大いに貢献したものと確信しております。

一方、道路上での交通事故による死者数は、昭和45年を境に減少しておりましたが、昭和55年から増加傾向に転じたことは、まことに残念なことであります。この現象には種々の要因があるかもしれませんが、交通事故を減少する諸施策の中で、とくに投資効果の大きい「反射性道路標示」をさらに普及徹底させることが、まことに時宜にかなった対策と考えられます。そして、交通環境の良い世界に誇れる日本の道路のますますの発展を願うものであります。

昭和56年は貴協会のおめでたい10周年記念の年でもあります。私どもに関連する交通安全5カ年基本計画の初年度でもあります。

貴協会で製造されている「よう着型トラフィックペイント（道路標示）」は、交通安全を確保するための重要な鍵を握るものであり、その社会的使命は非常に大きく、車社会の進展とともに将来ますます大きな期待を担ってゆかれるものと確信いたしております。最後に貴協会の今後ますますのご発展を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

（日本ガラスビーズ協会会長）

ロードマーク

高性能溶着式道路標示材 JIS-K-5665 許可番号878069号
耐久性・視認性・作業性。それらの諸要求に応え得る九州唯一のメーカー

株式会社 **ロードマーク**

本社 北九州市小倉北区井堀5丁目2番18号
〒803 電話 (093) 651-5079 番



想 起 一 昔 日

元会長 石 渡 清 司

路面標示材協会が発会式をもったのは、昭和46年6月28日のことでした。
いつのまにかひとむかし10年が経ったわけです。

さらに、協会の発会をさかのぼること10余年、昭和30年代の初めに、現在の標示、区画線用の溶着材料が、関西で堺商事KK（現ラインファルト工業）、関東で信号器材KKの両社によって相前後して初公表されました。公表されるまでに、もちろん研究改良に費された何年かがあり、公表後にもまた、商品として上市されるまでに何年かの悪戦苦闘時代がありました。

この間、道路面に及ぼす天候・風土・交通の条件が想像もし得なかったほどの苛酷なものであることを知らされ、また200度を超える高温溶融の材料を軽便な手作業機械で扱うことが、予想をはるかにこえる困難なことであることも、身にしみて味わったわけです。

そしてもう一つの困難は、材料とその施工機械が商品価値を確立しても、市場はいまだ全く確立されていなかったことです。それがいかに多くの優利点を持つ商品であっても、従来商品に比して10倍も高いということから、従来品にとって替えるのは決して容易なことではなかったわけです。

まず各お役所の仕様書を変えていただかねばなりませんでした。そして予算も組み替えていただかねばなりませんでした。ご承知の通りこの作業は一朝一夕には出来ません。こればかりはいくらわたしどもが急いでもどうしょうもないことでした。思えば本当に当時の諸官公庁のご担当の方々にはお世話になりました。そのご理解とご支援と、ご鞭撻がありましたからこそ、この業界が誕生し、今日

路材協創立10周年に寄せる

があるわけです。改めて厚くお礼申し上げます。

こうした揺籃期間に、現在の協会のメンバーの顔ぶれもほとんど出揃ったわけで、また施工業者の方々も全国に400を数えるに到りました。とはいえ歴史は浅く、創成期につきものの混乱から、次々にトラブルが発生する状況となりましたので、何とかルール作りをして、協調を求めつつ、一つの業界にまとめあげて相互の発展と向上を計らねばならないということになり、これが協会発会の主旨であったわけです。

さて発会をしたものの、実のところ46年から49年いっぱいには幹事会社が各々自分の会社の職員を動員したりして、何とか格好をつけてきた程度で、第1次石油ショックを受けると、どうしても対処しきれなくなり、50年2月アトム化学の厚意で初めてまっとうな事務局を設け、小原現専務理事を事務局長に迎えることになりました。

数百名の候補者から、小原さんを見つけ出したのは、当時の常任理事諸公の功績の最大のものであるとあってよいでしょう。実際、路面標示材協会はその日から本当に動き出したのです。会員間の周旋、企画、会報の編集と交字通りの活躍が始まりました。

こうして協会は第1次石油ショック、第2次ショックと、その波浪に振り廻さ

昼夜を問わず鮮明なライン

セキスイ 道路標示材 (ジスライン ジスラインS)

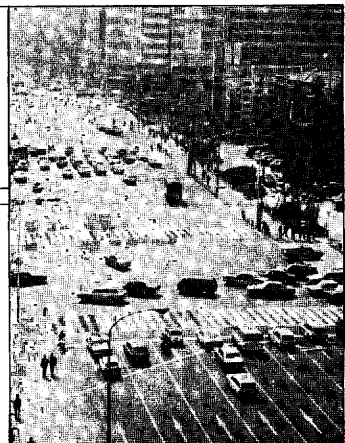
セキスイのジスライン（溶着式）およびジスラインS（融着貼付式）は道路標識標示の専門メーカーとしての積水樹脂の豊富な経験と技術が産んだ道路標示材で、その耐久性、耐摩耗性、鮮明さは全国各地で高い評価を得ています。

交通安全に奉仕する



積水樹脂株式会社

本社 〒530
大阪市北区西天満2-4-4
(堂島関電ビル)
TEL 06 (365) 3244



路材協創立10周年に寄せる

れながらも、この間の価格の混乱による会員間の摩擦も見事に調整し、乗り切ってきました。また生産統計の整備をはじめ、材料のJIS規格化、黄色の統一、工法技術の標準化、材料と施工機械の解説、需要調査等々、業界の発展向上に大いに役立つ実績をあげてきました。

わたくしどもは、交通事故防止の面で、重要な社会的役割を荷なっているばかりでなく、速乾性、耐久性の改革で、従来のひんぱんな塗りかえと長い乾燥時間による交通障害を解決し、日本の経済活動に大いに寄与貢献していることに、自覚と誇りをもっています。

それゆえにこそまたわたくしたちは、今後さらに何を考え、何をせねばならぬのかを考えねばなりません。米国の作家アーサー・ヘリーの「自動車」という小説の中に、道路に誘導体が埋めこまれ、自動車はそれによって指示されて走行し、標識も標示も無くなるという将来の路面交通の姿が、チラリと書いてありました。(すでにゴルフ場の一部で原型を見る)

そこまではともかくとしても、現在の高温溶融材料はそろそろ替ってもよいのではないか。つまり、常温または低温材料が現れてきてもよいはず。価格、作業性、その他問題点はまだまだ残っているにしても、そうなると施工機も大きく変わってくるだろうし、プロパンを使用する若干の危険性もなくなりましょう。



神東塗料株式会社

シンターライナー (溶融型)

シンターライナー (常温型, 加熱型)

Sプロード (すべり止め塗料)

本社 〒661 尼崎市塚口町6-10-73 (TEL(06)429-6261)

東京支店 〒103 中央区八重洲1-7-20(八重洲口会館)(TEL(03)272-4011)

路材協創立10周年に寄せる

これは一例にすぎませんが、協会が20周年を祝う時には、今日の姿を笑いばなしとして昔語りが出来るとなるといい、と思っている次第です。

(ラインファルト工業(株)―大崎工業(株)専務取締役)



今後の更なる発展を願って

元会長 竹嶋 正幸

10年一昔と申しますが、路面標示材協会が、このたび10周年を迎えましたこと、まことに業界のために喜ばしく、心よりお祝いを申し上げます。

顧みまして、業界の協調発展のために、真の土台作りに専念された初代会長堺化学(株)の田中さん、続く石渡さんの後任として、図らずも私が三代目会長の大役をお引受けいたし、何とか52年度、53年度と大過なくつとめ得ましたのも、ひとえに、関係各位のご協力の賜であったものと厚く感謝いたしております。

以後、54年度、55年度はアトム化学(株)西川専務、56年度は菊水ライン(株)新美社長と、有能な方々のご尽力で、業界は発展の一途を辿っておりますこと、まことにめでたく存じます。

私の在任当時、大役を大過なく過してこられましたのは、一つには、一般景況が不況時に当り、公共投資が活発化したという時宜に恵まれましたこともございますが、それにも増して、私の喜びといたしますのは、関係諸官庁、関係各位の方々の、業界の発展という大義のために絶大なご協力、ご援助を下されたことのひとえに賜と、心より厚くお礼を申し上げる次第でございます。

とくに、溶着型トラフィックペイントの黄色統一化に関しまして、日本ペイント(株)今村技術部長を委員長とする路材協・技術委員会の献身的なご苦勞のおかげ

路材協創立10周年に寄せる

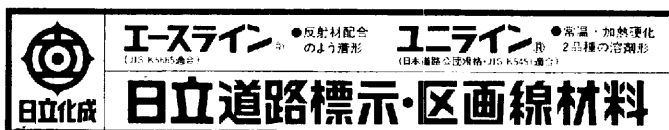
をもちまして、在任中に全国的な色相の統一化（色相の幅の狭小化）の大業が果せましたことは、前記技術委員会の各位、並びに警察庁交通規制課時崎課長補佐をはじめとする警察庁関係各位、さらには全国標識標示協会各位の、みなさま方のご協力のおかげでございまして、私といたしましては、まことに好運、光栄のいたりでございました。

また在任中、トラフィックペイントのJIS改訂化を忍耐強く推進できましたのも、これまた技術委員会、通産省関係各位、関係諸官庁各位のご尽力の賜でございまして、これが業界秩序の維持となって顕現され、協会として質・量ともに躍進の時代であったといわれておりますが、私といたしましては、この点、関係各位に心より感謝申し上げますとともに、心秘かに喜び多い思い出の深い時期であったと感じております。

ここに改めて心より感謝の念を述べますとともに、四代目会長、五代目現会長の有能のおかげをもちまして、発展の一途を辿りつつあります協会の今後なお一層のご発展と各社のご繁栄をお祈りいたす次第であります。

（積水樹脂㈱代表取締役、専務取締役）

交通安全に貢献する エースライン®



© 日立化成工業株式会社 (本社) 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル内私書箱第233号 ☎160 ☎東京 (03) 346-3111 大代



路材協創立10周年に寄せる

元副会長 松本吉弘

創立10周年、心からお喜び申し上げます。設立当初に関係させていただいた者として、路材協が多くの苦難を乗り越えて、着々とその存在意義を発揮されつつ発展されておりますことは、本当にうれしく存じます。記念パーティには是非出席させていただき、旧知の方々ともお会いしてお話をうかがいたいと心待ちしておりましたところ、突然海外出張することとなり、誠に残念でございます。誌上をお借りしまして、お詫び申し上げます。

10年前、関係各社が、それぞれの立場を越えて大同団結して、路材協を結成しましたが、当時の路面標示材の現状は、あるいは技術的に、あるいは施工上、あるいは規格面、また採算面で、各社それぞれの問題をかかえているばかりでなく、業界共通の問題として解決しなければならない課題が山積しておりました。しかし、お聞きいたしましたところ、十年を経て、これらの諸問題を、会員各社の関係者の方々のたゆまぬ御努力と小原専務理事さんのご尽力により、着々と解決されてこられたことに、衷心からお慶びと敬意を表させていただきたいと存じます。

顧みますと、協会設立前は、懇話会として発足しましたが、その後堺商事の石渡さん(当時)の御発言で、協会設立の気運が盛り上がり、何回かの打合せで設立の決定をみたと存じます。何分、当時の路面標示材業界そのものが、採算面での問題もあり、路材協設立の財政上の点で、会員全員の一致をみるのに、なかなか苦勞いたしまして、事務局事務所も堺商事の東京事務所をお借りし、その後、専任の事務局長をおくことに決まりました時も、その設置場所を、アトム化学の西

路材協創立10周年に寄せる

川専務さんの肝入りで、やっと神田のアトム化学の一室をお借りでき、小原さんの事務局がスタートいたしました。また事務局長（現専務理事）の小原さんに決まりますまでも、小原さんのような学識の豊かな方では、当協会には贅沢ではないかという意見もありましたが、思い切って、むしろ、このような学識の士を招いたほうが良いのではないかと、ということになって決まったように記憶しております。

また創立当初の会長として、当時の堺化学の田中専務を戴き、副会長に、信号器材の宮本専務と、私が不遜にも若輩の身で、選任されましたが、会員各社の利害がなかなか一致せず、役員の指導性が云々されましたことも、懐しい思い出の一つでございます。しかし、このことは、新しい業界としての若々しい希望や意見の相違であって、あくまでも建設的な考えに起因するものでありました。

その頃からすでに協会の課題でありましたJIS問題、黄色問題、会報の充実、ハンド・ブックの作成、技能検定の設置、また組織上の面で、全国標識標示業協会との関係づけ、特に内部組織の強化——地方組織の充実——等がございましたが、この10年間に、これらの諸課題を着実に解決されておられることを聞きまして、本当に心からうれしく存じます。

今後、会員の皆様が一層お力を結集されて、対官庁関係をさらに一層強化さ

標示用全種……塗料と機械の……専門メーカー

アトム化学塗料

本社 東京都板橋区舟渡3-9-2 〒174 電話 03-969-3111

路材協創立10周年に寄せる

れ、最大の課題であります路面標示材協会の法人化を是非実現され、名実ともに交通安全という現代社会にとって最も大切な事業の質的な向上と量的な拡大に寄与されんことを切にお祈り申し上げます。

(日立化成工業(株)取締役, 国際事業部長)



路材協の特質と使命

前会長 西川 政之助

月日の経つのは早い……という実感は、私が「路材協」会長の重責をいただいてから今日まで、早や二年間、アッという間に過ぎさり、任期満了を迎えたことで感じます、と同時に「路材協」が最初の「懇話会」から発足してすでに10年、10歳となったことも同様であります。

「懇話会」から「協会」へ発展する過程で、事務局を設立するとともに、専任事務局長を置くこととなり、現、小原専務理事が就任しました。協会の運営は何といっても事務局に負うところが大きく、運営の成否は事務局長の力量にかかると言っても過言ではありますまい。

この点、幸に氏は永年の経験と幅の広い人物で、とくに経済界に精通し、現に某大学で経済学担当講師として教鞭を受け持ち、文筆はもちろん、論説においても超ベテラン。むずかしい協会運営を今日の「路材協」にまで発展させたことは氏の貢献がいかに大きいかを、改めて認識させられるものです。

ところで、私たち業界をかえりみますと、良い後は悪い、と申しますとおり、ここ二、三年の間がとくに困難の強い印象を受けます。高度成長の波に乗った公共投資関連事業種は、急転の低成長時代への変遷から、経営の打撃を余儀なくさ

路材協創立10周年に寄せる

れ、予算と需要の伸びなやみと併行して発注単価の頭打ち、と川上からの変化。一方原油の値上りによる直接、間接の影響はジワジワとコストプッシュの川下からのハサミ撃ちを受けている次第です。

石油化学に関連する業界の共通点であり、当業界もその例外ではありません。けれども、石油に依存するかぎり、原油は今後も間違いなく値上りすることは申すに及ばず、需給の関係で上下の波を受けるにせよ、確実に石油製品を中心に原材料市況は上昇の一途をたどることでしょう。

ことに「路材協」の場合、75%近くを直接原料費とする特殊性格は、値上りに対して消化のギャップの間隙が狭いが故に、一喜一憂どころか、一憂一憂の永い道をたどらねばならないと思います。

また工事関係需要者においても極めてきびしいものが見通されます。戦後生れがすでに中年層となり、若年層は急ピッチで減り続け、年齢階層はピラミット型から中太り型に変り、さらに教育水準の向上から、労働環境のきびしい線引作業は忌避される一方で、大卒者の現場参入もそう遠い時間ではありますまい。現に私のところの工事部門でも、現業員中、すでに大卒者が40%にも達しつつあります。

このような流れの変る世相にあって、協会の活動、使命も「その流れに沿って

日本ゼオン(株)

〒100 千代田区丸ノ内
2-6-1 古河総合ビル

TEL (03) 287-0706

取締役社長 大西 三良

(業種) 化学工業

(路材協、賛助会員)

東邦石油樹脂(株)

〒103 中央区日本橋
人形町1-9-2

TEL (03) 667-8445

取締役社長 遠藤 和良

(業種) 樹脂製造業

(路材協、賛助会員)

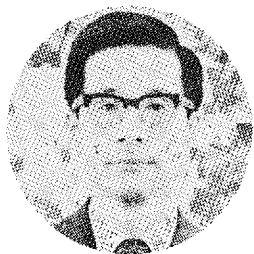
路材協創立10周年に寄せる

あらねばならない」と思います。協会会員の知恵を集め、新しい流れの協会ポリシーを作り、協会の意義を高めたいものです。幸に当協会は力量の優れた専務理事がおり、他の業界に見られる「足の引っぱり合い会」と異って、協会会員の相通ずるものを持っている協会として、まことに幸であると思っております。

私たちは社会的に大きな使命を持つ事業業態であります。企業間の宿命は止むを得ませんが、お互に胸襟を開いて今後の標示塗料、機械、工法の開発について幅を広げた話し合いの場を持ち、あるいは発注者、需要者を集め、各社製品、開発品を一堂にそろえ、公開することによって、評価、批判、英知をいただいて、切磋琢磨の機会を作ってみてはいかがでしょうか。

以上、私見を拙文に代えてみた次第でございます。

(アトム化学塗料㈱専務取締役)



技術委員会活動を ふり返って

副会長・前技術委員長 今村 晴 知

私が技術委員長になったのは昭和50年6月でしたので、ちょうど3期、6年間もその職にいたこととなります。そこで末岡前委員長時代の頃も含め、技術委員会の主な活動を、この際ふり返ってみたいと思います。各年ごとの特記すべき内容は、次の如くです。すなわち、

- 48年 — 黄色顔料の公害対策の技術調査。
 - 49年 — 発注機関別仕様書の収集と整理。
 - 50年 — ○同上、仕様書の諸規格とJISとの調整・検討。(継承)
○塗膜の摩耗粉じん量の推定。
- } 末岡前委員長時代

路材協創立10周年に寄せる

○黄色顔料の対公害技術見解のまとめ（協会見解へ）。

5 1年 — 発注材料規格の J I S 対比第 2 次調査。

5 2年 — 黄色色相の実態調査と視認向上の検討。

5 3年 — ○黄色新基準の設定協力と広報活動（「道路標示黄色」）。

○よう着用塗料 J I S の見直しおよび日本道路公団の規格の改訂協力。

5 4年 — ○トラフィックペイント新 J I S 原案作成検討。

○新黄色色相の自主チェック開始（以後定例化）。

5 5年 — トラフィックペイント新 J I S 改正へ委員会協力。

（5 6年）— 技術資料「トラフィックペイントの手引き」の検討と編集。

まあ、こうやってふり返ってみますと、次々と恰好のテーマがあったものです。無論、技術委員会は内なる側にあつて、協会の対外活動に対する基盤作り、支援材料、資料提供など、精一パイ取組むように心がけてきたと思いますが、この間、委員各位の絶大なご協力によって、何とかそれなりの成果が得られたことを、心から感謝いたすところであります。ことに、常任理事会社の歴代委員の方々と関へ高橋委員には、度重なる会合・検討に多大の時間をさいていただき、ありがたいことでありました。

森下産業(株)

〒101 千代田区岩本町
1-8-17

TEL (03)861-5121

取締役社長 森下啓之助

(業種) 色材品、販売及び加工

(路材協、賛助会員)

東邦顔料工業(株)

〒174 板橋区坂下
3-36-5

TEL (03)960-8681

取締役社長 丸川 良平

(業種) 黄鉛、防錆顔料製造

(路材協、賛助会員)

それらの各々について経過など、メモをつけてみましょう。

その1. 顔料公害への見解表明

第1次オイルショック後の重金属公害禍に対する調査と見解は、末岡前委員長の下で進められ、これを基礎に黄色の塗料・塗膜について、50年以降、さらに協会見解へと一歩進めることができました。これは現在でもその考え方を維持するものとなっており、黄色線施工が、その後も安定して進められているゆえんでもあると思います。

その2. 溶融塗料黄色の統一

いわゆる日塗工色見本帖212色から346色や257色にまたがる、さまざまな指定黄色に対し、視認の点から文献調査や測色で研究をしていたものでありますが、警察庁での検討段階では、当時、赤味がかかった5段階の黄色見本を用意したものから、結果として最も赤味のものが好ましいと測定されたのには、各会員ともいささか驚いたのではないのでしょうか。なぜなら、外国の黄色線はすべてレモン系の色ですし、国際的には進歩しすぎている(?)のではないか、また一般の人たちが素直に黄色と感じてくれるだろうか？、メーカー生産もスムーズに切替えできるのだろうかなど、いささか気になったものですから……。幸い警察庁当局の各自治体警察へのご指導と、顔料メーカーのご協力によって、比較的早く新

エクソン化学(株)

〒107 港区赤坂
5-3-3 (TBS会館)

TEL (03)584-6211

取締役社長 C.J.ジャンコフスキー

(業種) 石油化学製品の販売

(路材協、賛助会員)

石原産業(株)

〒550 大阪市西区江戸堀
1-3-11

TEL (06)444-1451

取締役社長 石原 健三

(業種) 酸化チタン製造販売

(路材協、賛助会員)

黄色が滲透し、委員会ではほっとしたものです。

その3. J I S改正への長期取組み

50年から51年にかけての二回にわたるよう着塗料の諸規格見直しから、できるだけJ I Sに準拠した仕様を発注機関で採用いただくような促進化をはかったのでありますが、工業技術院にJ I S K 5 6 6 5の改訂を立案願うよう接点をもったところ、トラフィックペイント全般のJ I S見直しということになり、協会としてはある面で大変な重荷ともなったものであります。しかし、日本塗料工業会が工業技術院との、本来、窓口にある点から、路材協はそのお手伝いをさせていただくようになり、じらい、日塗工の岸課長にはずい分とお世話になったもので、感謝のほかありません。そして、工業技術院標準部の寺沢氏、天野氏、お二方の熱心なご指導に対し、何とか技術委員各位の総知で対応させていただき、塗料J I Sの用途向け一本化規格が初めて誕生できるきっかけとなったのは、一連の接渉役にあたった私の感謝といたすところであります。

その4. 「トラフィックペイントの手引き」

今なお編集の途上にありますので、多くは申し述べにくいのですが、長い間、路材協会報に、技術委員が次々と投稿していたのがきっかけで、非常に短期間に一応のまとめをすることができました点、とくに常任理事会社の委員各位のご協

日本無機^{化学}工業(株)

〒174 板橋区舟渡3-14
TEL (03)241-2546(東京支店)

取締役社長 古沢 収三
東京支店長 取締役 中條健八郎
(業種)無機顔料及び工業薬品の
製造、販売

(路材協、賛助会員)

竹原化学工業(株)

〒105 港区新橋
1-11-2 (鈴木ビル)

TEL (03)571-5283

常務取締役 安藤 晴康
(業種) 無機充填剤製造、販売

(路材協、賛助会員)

路材協創立10周年に寄せる

力が大きかったことを、あらかじめ述べておきたいと思います。

その5. 講習会の講師派遣と勉強会の開催

外に向っては、とくに銜全標協各支部への技術講習会協力、内にあるのは、警察庁交通規制課、建設省土木研究所交通安全研究室、日本塗料検査協会、ガラスビーズ協会などから、ご講演をいただいていた勉強会など、今後も機会を得てさらに継続したいものです。そして、場合によっては、外に向って研究事項を取込むのも、一つの活動方向でありましょう。

ところで、一転して付け加えたいことが一つあります。それは、協会内でも技術委員各位は——私もそうなのですが——技術系のためか、生まじめな点があり、忘年会などを通じて何度か親睦を重ねるときがあったものの、協会全体の行事では、どうしても業務委員各位には多くを譲っているようです。私など役目から、何とか足許で相対するぐらいにはやりましたが、どうか、各理事、各業務委員の方々も、今後はつとめて技術委員を引っぱり出して下さい。

53年の秋でしたか、京都の会合のときに、一泊して秋ゆく京のまちを散策したのは忘れえない出来ごとでもあったのですが、人数が少なかったのは残念なことでした。ぜひ今後のタイムリーな斬新プランと技術委員の積極的参加を期待いたします。

(日本ペイント 銜道路塗料部長)

菊池色素工業(株)

〒170 豊島区巢鴨3-5-1

TEL (03)918-6611

取締役社長 菊池 信夫

(業種) 顔料の製造販売

(路材協、賛助会員)

三井石油化学工業(株)

〒100 千代田区霞が関3-25

霞が関ビル20F

TEL (03)580-3611

取締役社長 淡輪 就直

(業種) 石油化学

(路材協、賛助会員)

期待したいこと

兵庫県警察本部交通規制課長 末井 誠 史

60年代から70年代にわたる高度成長期から80年代は、安定成長期を迎えたという認識が一般的であります。安定成長期には、高度成長期に生じたさまざまなひずみを正し、人間性の尊重に根ざしたゆるやかな経済成長への指向が強まると思います。このことは国際的には“日本株式会社”からのイメージチェンジを、国内的には経済、財政や社会の仕組みや在り方の見直しを行い、経済成長一本槍から人間尊重を目指す新しい国づくり、社会づくり、そして人づくりの時代を迎えたといえます。いいかえますと、このような新しい時代にふさわしい近代化が進められることになると思うのです。

ところで、安定成長期に入り、各府県とも交通安全施設整備予算は前年度対比で横バイないしは減少の傾向がみられ、道路整備予算もほぼ同様な傾向にあります。路面標示（道路標示、区画線）についても、予算上の制約がきびしいなかで、毎年度新設や保全（塗りかえ）のために、膨大な経費支出を強いられている現状にあります。

路面標示は、文字どおり路面にマーキングしているため、直接自動車の走行によって、損耗されやすい条件下にあります。とくに道路標示（規制、指示標示）は区画線と異なり、これに違背すると交通上の危険を生ずるばかりでなく、運転者の処罰をとまなうので、その保全にはことのほか気使いが多く、また多額の経費を要します。さらに本県（兵庫県）の場合、但馬地域や県中部地域では、毎年冬期に除雪作業やタイヤチェーン等による損耗が著しいため、これらの地域に、交通安全施設整備予算総額のほぼ1割の巨費を投入して保全しています。

それだけに私たちは少ない予算を、いかに効果的に運用するかについて、一層の創意工夫をこらしているのが実情であります。

他方、道路標示の設置効果と保全の面からみますと、路面標示材料（路材）そのものの質も重要な要素であります。路材メーカーは、J I S規格に適合した路材生産に努力されていますが、施工の際の路材の熔融温度、路面の浸潤度、気温等の微妙な変化によって、右側はみ出し禁止標示（黄色）では、基準色に比べて著しい差異が生じている例を見受けることがあります。

路材協会報（1981年、№27）で、西川会長が路材メーカーの特殊性をふまえ、(1)交通安全施設関連産業として重要な使命をになっていること、(2)需要先はほとんど官公庁であるので、絶対に粗悪品を供給してはならないことを強調されていますが、わが意を得たりというほかありません。

路材メーカーのおかれていた経営環境は、安定成長期といえ、国および地方公共団体の財政事情のきびしさを反映して、まことに深刻なものがあると思います。

先に“近代化”ということをお申しましたが、その意味、内容はそれぞれの立場から多義的なことばであります。路材メーカーの立場からいえば、もちろん経営の合理化をはじめ、生産施設の高度化、販売網の整備等を行い、現在、将来のきびしい情勢に対応し得る強い企業体質をつくる意味になると思います。

私達が路材メーカーに対して考えている近代化とは、西川会長が強調された二つの理念に沿った経営の在り方を、その意味として理解したいのです。すなわち路材メーカーとしてのあるべき姿勢、いいかえますと、社会的な期待に応え得る企業の在り方を実現しようとする努力が、近代化への努力であると申し上げたいのです。

路材メーカーの皆さんは、今後ともきびしい経営環境のなかにあつて、近代化への努力とともに、路材の質の向上と新しい路材の開発のために、一層のご精進をお願いし、あわせて交通安全施設関連産業として、社会の期待に応えられ、今後さらに発展されるよう念願してやみません。

事務局便り

◎ 10周年記念行事実行委

3月4日、第1回会合を日立化成工業㈱本社で開催、全委員出席のもとに、記念行事の具体的項目を検討、整理し、行事の大綱を決定した。

また4月9日、第2回会合を神東塗料㈱東京営業所で開き、事務局から各行事プランの進行状況を報告、記念出版（技術テキスト・ブック）の発注先等、その他、行事推進上の所要事項につき協議決定した。

◎ 各社の当協会担当者変更（敬称略）

- ① 東亜ペイント㈱より理事変更届。同社の人事異動により、影井周三氏から大原信三氏（業務推進部々長）へ理事変更の届出（4月17日受付）。
- ② 日本ペイント㈱より、理事、技術委員変更届。同社選出理事を鈴木政夫氏から今村晴知氏（道路塗料部長）へ、また技術委員は今村晴知氏から西村幸男氏（道路塗料部マネージャー）へ、それぞれ変更の届出（4月6日受付）。
- ③ 関西ペイント㈱より技術委員変更届、同社の人事異動により、技術委員を高橋英一氏から長谷川謙三氏（技術本部東京駐在部長）へ変更届出（4月1日）。
- ④ 信号器材㈱より業務委員、技術委員変更届。同社選出の業務委員を宮城真一郎氏から熊沢克俊氏（道路交通部業務課長代理）へ、また技術委員を末岡力氏から安田知行氏（技術部設計研究課長代理）へ、それぞれ変更の届出（4月24日受付）。

◎ 三井石油化学工業(株)が賛助会員

かねて申込みのあった三井石油化学工業㈱の賛助会員入会の件は、このほど理事会で全会一致可決され、正式に入会が決定しました。

◎ このほど配布の会員名簿で、積水樹脂㈱の記載事項のうち、①理事の肩書きを取締役・道路資材事業部長に、②また業務委員の肩書きを道路資材事業部標識標示材企画課長に、それぞれ訂正下さい。（同社の機構改革によるものです）

余 瀆

この第28号は“創立10周年記念号”としてお届けします。「10年ひと昔」といいますが、この10年間の変化は、いろいろの面で大きかったと思います。無事10周年を迎えられたことは、多くの方々のご努力やご支援の賜物です。

記念号の編集に当って、まず考えたことは、この10周年に際して、これまでとくにお世話になった外部関係機関の方々から、励ましやお叱りなど、率直なお言葉をいただき、次の20周年に向っての指針の資にしたいということでした。お願いした6人の方々からは、それぞれ有益な玉稿をいただき、深く感謝いたします。また内部関係からも、とくに協会運営に苦勞され、功勞のあった歴代会長ら5氏に、それぞれの体験をふまえた回顧や抱負を中心に書いていただきました。

この記念号は普通号とはいささか趣を異にしますが、「路材協の歴史を真面目に語り、かつ今後に向って決意をあらたにする」というところに特色があり、意義もあると考えます。

関係各位のご支援に対して、重ねて感謝するとともに、これからの10年間も、さぞや一層の変化と苦難の多い時期と思いますが、無事乗り切って、輝かしい20周年が迎えられるよう、倍旧のご支援をお願い申し上げます。(〇)

日本ガラスビーズ協会

会 長 江 本 義 男

東京都港区高輪1-4-26 日興三田ビル内 電話03-446-5711代

■会 員(A B C順)

ブライト標識工業株式会社

大阪府高槻市富田丘町1-1

☎(0726)96-3115

岳南光機株式会社

静岡県駿東郡長泉町下土狩695

☎(0559)86-4484

東芝パロティーニ株式会社

東京都港区高輪1-4-26(日興三田ビル)

☎(03)446-5711

ユニオン硝子工業株式会社

大阪府枚方市大字津田4040

☎(0720)58-1351

近刊予告 申し込み受付中

路材協・技術委員会編

トラフィックペイントの 手引き

最適!

道路標示の勉強に、講習会テキスト・ブック
はじめて出た道路関係者必携の参考書

〔内容のあらまし〕

I 総論

トラフィックペイントに求められる条件、塗料の分類と特性比較、並びに
トラフィックペイント新JIS（K5665-1981）の紹介をする。

II 原料

トラフィックペイント1種(常温)、2種(加熱)、3種(溶融)の各々につ
いて原料組成と各原料の説明をする。

III 試験項目と試験方法

1種、2種、3種における各試験項目の解説と試験方法の骨子を述べる。

IV 施工法(塗装法)

1種、2種におけるキャリブレーションの方法や3種の施工各工程におけ
る留意事項を述べる。

V 取扱い上の注意事項

1種、2種、プライマー、シンナー、3種、LPガスなどの貯蔵や取扱い
における安全上の注意と、施工における安全管理に触れる。

VI 塗膜面に生ずる欠陥と対策

塗膜欠陥に対する心構えや1種、2種並びに3種における現象・原因・対
策について一括表で要約する。

VII その他の路面標示用材料

貼付け式や埋込み式の標示用材料及び道路鉄についてごく簡単に紹介する。

頒価 1部 1,400円 (送料とも、乞現金送金)

申し込みは 路面標示材協会事務局

東京都千代田区神田富山町17
西川ビル内